

海難の現況と対策



2019年(令和元年)版

【本誌で使用する海難用語について】

<船舶海難>

○ 海難種類

- ・衝突：船舶が他の船舶に接触し、いずれかの船舶に損傷を生じたことをいう
- ・単独衝突：船舶が物件（岸壁、防波堤等）に接触し、船舶又は物件に損傷を生じたことをいう
- ・乗揚：船舶が陸岸、浅瀬等水面下において大地に直接又は間接的に固定しているものに乗揚げ、乗切り又は底触したことをいう。
- ・転覆：船舶が外力、過載、荷崩れ等のためほぼ90度以上傾斜して復元しないことをいう
- ・浸水：船外から海水等が浸入し船舶の航行に支障が生じたことをいう
- ・火災：船舶または積荷に火災が発生したことをいう
- ・爆発：船舶において、積荷、燃料、その他爆発性を有するものが引火等によって爆発したことをいう
- ・運航不能：運航に必要な設備の故障、燃料等の欠乏等により、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （推進器障害）：推進器及び推進軸が脱落し若しくは破損し、又は漁網、ロープ等を巻いたため、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （舵故障）：舵取機及びその付属装置の故障、舵の脱落又は破損により、船舶の航行に支障が生じたことをいう。
 - （機関故障）：主機等推進の目的に使用する機械が故障し、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （機関取扱不注意）：機関は故障していないが、機関の取扱不注意のため航行不能となったことをいう
 - （バッテリー過放電）：バッテリーが過放電したため、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （燃料欠乏）：燃料が欠乏したため、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （ろ・かい喪失）：ろ・かいが喪失したため、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （無人漂流（係留不備））：係留策の解らん又は切断による船体の漂流のことをいう
 - （無人漂流（海中転落））：操船者の海中転落による船体の漂流のことをいう
 - （操船技能不足）：カヌー、ヨット等の操船者の操船能力不足のため漂流したことをいう
 - （船体傾斜）：船体が傾斜したため、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （走錨）：走錨したため、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （荒天難航）：荒天の影響のため、船舶の航行に支障が生じたことをいう
 - （その他）：運航不能のいずれにも属さないもの
- ・その他：上記以外の船舶海難をいう

<人身海難>

○ 事故区分

- ・船舶海難によらない乗船者の人身事故（本誌では「船舶海難によらない事故」と記載）
 - ⇒ 船舶海難以外の理由により発生した乗船者の事故をいう（船内での転倒負傷や病気・死亡等）
 - ※ 船舶海難による乗船者の負傷、死者・行方不明者は、船舶海難に計上しています。
- ・マリンレジャーに伴う海浜事故（本誌では「マリレに伴う事故」と記載）
 - ⇒ 海水浴、釣り、スキューバダイビング等、海洋における余暇活動に伴って発生した事故をいう
- ・マリンレジャー以外の海浜事故（本誌では「マリレ以外の事故」と記載）
 - ⇒ 余暇活動に伴うもの以外の事故をいう（岸壁からの車両転落、作業中における転落、自殺等）

○ 事故内容

- ・海中転落：船舶から、陸岸等からを問わず、海中への転落をいう
- ・負傷：医療機関において治療を要する程度のものをいい、傷害を含む
- ・病気：医療機関において治療を要する程度のものをいう
- ・中毒：ガス、酸欠又は食品等による中毒であって、医療機関において治療を要する程度のものをいう
- ・自殺：未遂の場合を含む
- ・溺水：海で溺れた場合をいう（海中転落を除く）
- ・帰還不能：漂流、孤立等により保護が可能な陸岸に戻れない状態となった場合をいう
- ・その他：上記以外の事故をいう

【本誌における数値について】

- 船舶海難に係る数値は、隻数（隻）で表記しています。
- 人身海難に係る数値は、人数（人）で表記しています。
- グラフ内の数値（%）は、四捨五入していることから、合計で100%とならない場合もあります。

令和元年 海難の現況と対策 目次

ページ

船舶海難の概要

船舶種類別の傾向	1
船舶種類別割合（2019年、過去10年間）	
船舶海難及び船舶種類別推移	
船舶海難種類別の傾向	2
海難種類別割合（2019年、過去10年間）	
船舶海難及び海難種類別推移	
船舶海難原因別の傾向	3
海難原因別割合（過去10年間）	
海難原因別推移	
船舶海難発生場所の距岸別傾向	4
海難発生場所距岸別割合（過去10年間）	
海難発生場所距岸別推移	
過去3年間の船舶海難発生位置図	
船舶種類別の死者・行方不明者の傾向	5
船舶種類別死者・行方不明者数割合（過去10年間）	
死者・行方不明者を伴う船舶種類別割合（過去10年間）	
死者・行方不明者を伴う船舶種類別隻数及び死者・行方不明者数推移	

プレジャーボートの船舶海難

プレジャーボートの海難種類別の傾向	6
海難種類別割合（過去10年間）	
海難種類別推移	
プレジャーボート海難の用途別の傾向	7
用途別割合（過去10年間）	
用途別推移	
プレジャーボートの海難原因別の傾向	8
海難原因別割合（過去10年間）	
海難原因別推移	
プレジャーボートの運航不能（機関故障）の傾向	9
運航不能（機関故障）原因別割合（過去10年）	
運航不能（機関故障）故障箇所別割合（過去10年）	
運航不能（機関故障）原因別推移	
プレジャーボート海難の月別及び曜日別の傾向	10
月別海難隻数（過去10年間）	
曜日別海難隻数（過去10年間）	
プレジャーボート海難の船籍県別及び船長年代別の傾向	11
船籍県別割合（過去10年間）	
船長年代別割合（過去10年間）	

プレジャーボートの海難発生場所の傾向	12
海難発生場所距岸別割合（過去10年間）	
過去5年間の海難発生位置図	
プレジャーボートの衝突発生時の衝突相手船及び見張りの状況	13
衝突発生時の衝突相手船及び見張りの状況	
水上オートバイの海難の傾向	14
海難種類別推移	
海難原因別割合（過去10年間）	
操船者の経験年数別割合（過去10年間）	
月別海難隻数（過去10年間）	
ミニボートの海難の傾向	15
海難種類別推移	
漁船の船舶海難	
漁船の海難種類別の傾向	16
海難種類別割合（過去10年間）	
海難種類別推移	
海難隻数及び死者・行方不明者数推移	
漁船の海難原因別の傾向	17
海難原因別割合（過去10年間）	
海難原因別推移	
漁船海難の船長年代別、漁種別及び月別の傾向	18
船長年代別割合（過去10年間）	
漁種別割合（過去10年間）	
月別海難隻数（過去10年間）	
漁船の海難発生場所及び県別の傾向	19
海難発生場所距岸別割合（過去10年間）	
登録県別割合（過去10年間）	
過去5年間の海難発生位置図	
漁船の衝突・単独衝突・乗揚原因別の傾向	20
衝突・単独衝突・乗揚原因別割合（過去10年間）	
衝突・単独衝突相手船別割合（過去10年間）	
衝突・単独衝突・乗揚原因別推移	
漁船の衝突・単独衝突・乗揚発生時の操業及び見張りの状況	21
衝突・単独衝突・乗揚海難発生時の操業及び見張りの状況	
関門海峡の船舶海難	
関門海峡(情報の聴取義務海域)における衝突・単独衝突・乗揚の傾向	22
関門海峡における海難種類及び船舶種類別の割合（過去10年間）	
関門海峡における衝突・単独衝突・乗揚海難種類別推移	
過去5年間の関門海峡船舶海難発生位置図	

人身海難の概要

人身海難の事故区分別の傾向	23
事故区分割合（2019年、過去10年間）	
事故区分別推移	
人身海難の死者・行方不明者及び月別の傾向	24
死者・行方不明者数推移	
月別及び事故区分別推移（過去10年間）	
人身海難の事故内容別の傾向	25
事故内容別推移	
事故内容別事故者数推移	

マリレに伴う事故

マリレに伴う事故の活動内容別の傾向	26
活動内容別の事故者数割合（過去10年間）	
活動内容別の死者・行方不明者数割合（過去10年間）	
活動内容別及び死者・行方不明者数推移	
マリレに伴う事故の活動別・月別の傾向	27
活動別・月別発生推移（過去10年間）	
釣り中の事故内容別・死者・行方不明者の傾向	28
マリレの事故内容別事故者数割合（過去10年間）	
釣り中の事故内容別事故者数割合（過去10年間）	
釣り中の事故内容別事故者数及び死者・行方不明者数推移	
釣り中の海中転落事故の時間帯別事故者数及び死者・行方不明者数の傾向	29
時間帯別事故者数及び死者・行方不明者数推移（過去10年間）	
海中転落事故における救命胴衣着用・非着用別割合（過去10年間）	
釣り中の海中転落事故発生場所別及び行動形態別の傾向	30
海中転落事故発生場所別の事故者数及び死者・行方不明者数（過去10年間）	
磯場での救命胴衣着用・非着用別の死者・行方不明者数割合（過去10年間）	
海中転落事故における行動形態別の生存、死者・行方不明者率（過去10年間）	
遊泳中事故の内容・年齢構成・飲酒の傾向	31
事故内容別割合（過去10年間）	
事故者年代別割合（過去10年間）	
事故内容別及び死者・行方不明者数推移	
事故における飲酒の有無別の生存、死者・行方不明者率（過去10年間）	
遊泳中事故の遊泳場所別及び離岸流影響の傾向	32
事故発生の遊泳場所別割合（過去10年間）	
遊泳場所別及び遊泳可以外の場所における事故推移	
離岸流の影響があったと思われる事故者数及び死者・行方不明者数推移	

船舶海難によらない人身事故

漁船における海中転落・負傷の傾向	33
船舶海難によらない人身事故の船舶種類別割合（過去10年間）	
漁船の人身事故内容別割合（過去10年間）	
漁船の海中転落・負傷の原因別割合（過去10年間）	
漁船の自己過失の要因別割合（過去10年間）	
漁船の死者・行方不明者の事故内容別割合（過去10年間）	
海中転落（死者・行方不明者）の救命胴衣着用状況（過去10年間）	

海難防止対策

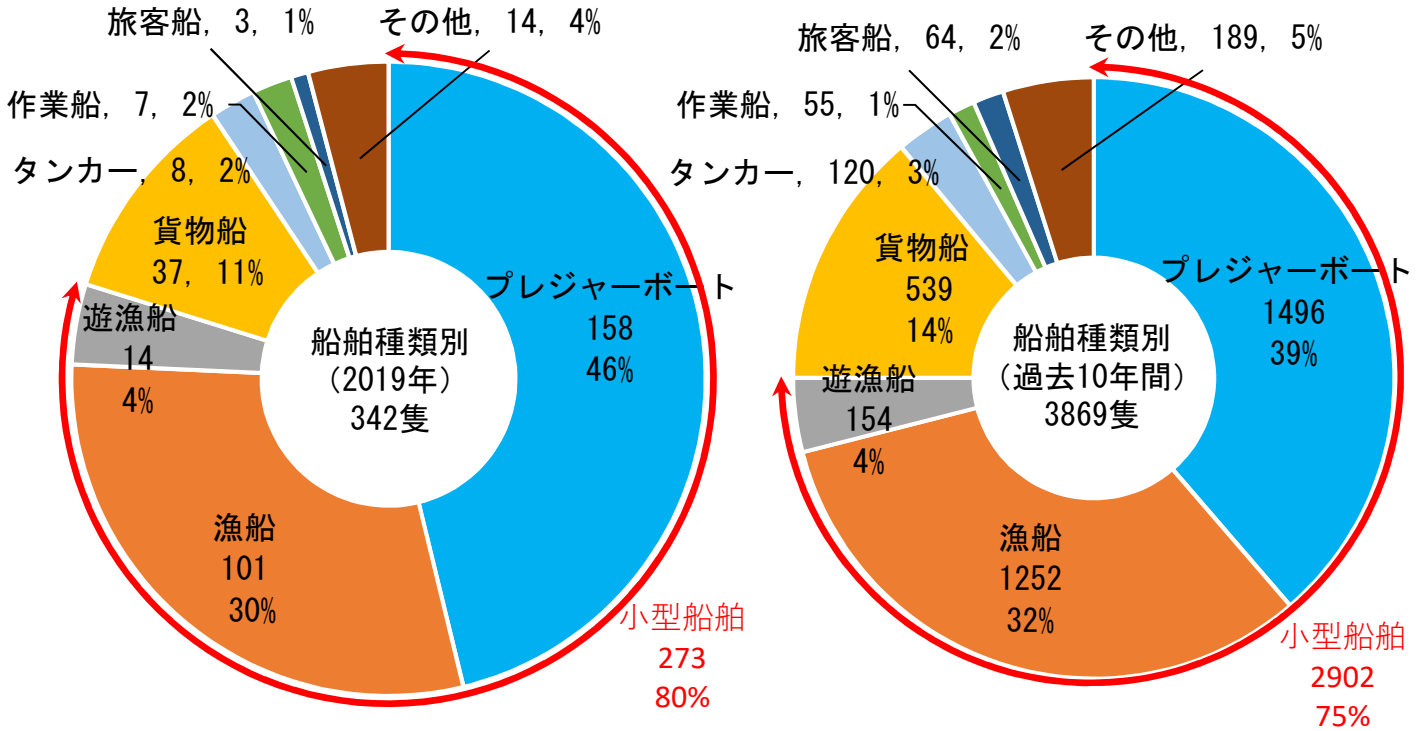
2019年の海難防止活動概要	34
今後の海難防止対策	37

船舶海難

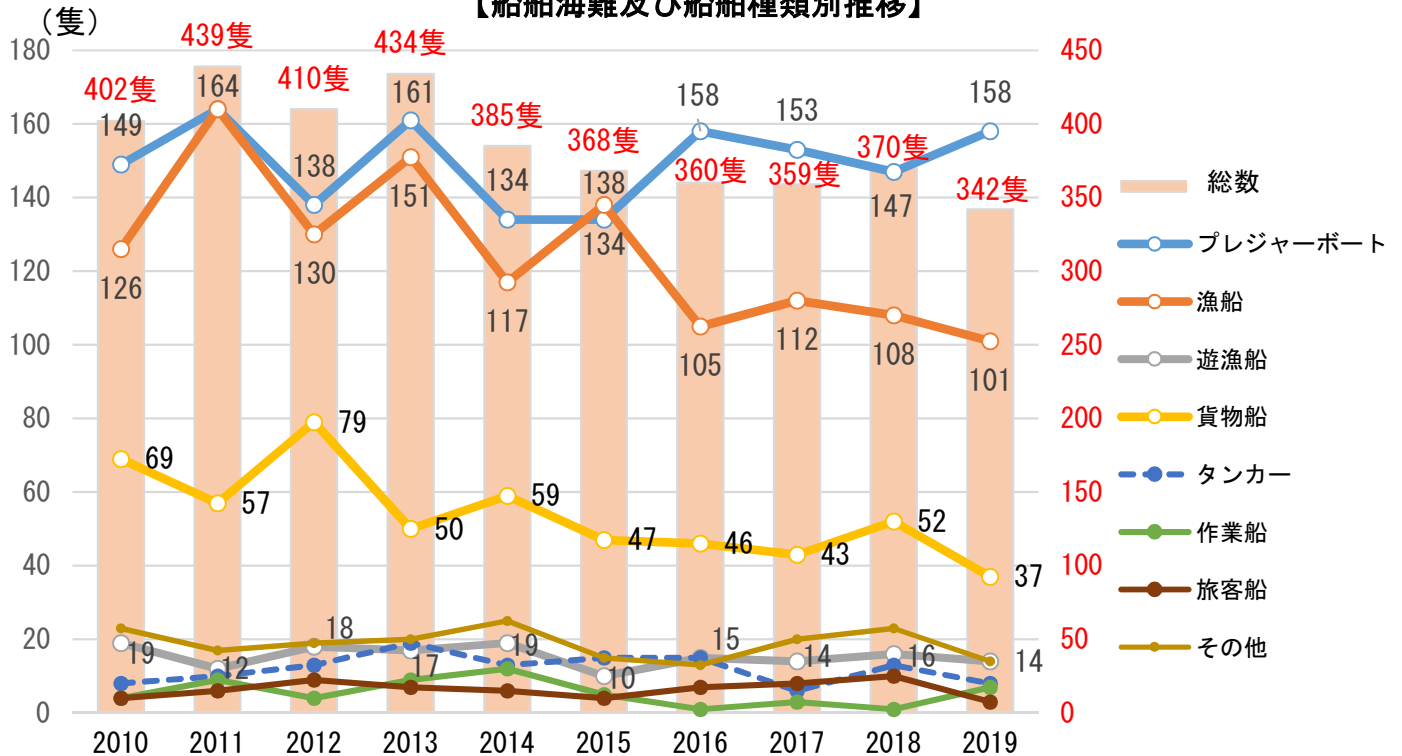
船舶海難の概要

◇船舶種類別の傾向

【船舶種類別割合】



【船舶海難及び船舶種類別推移】



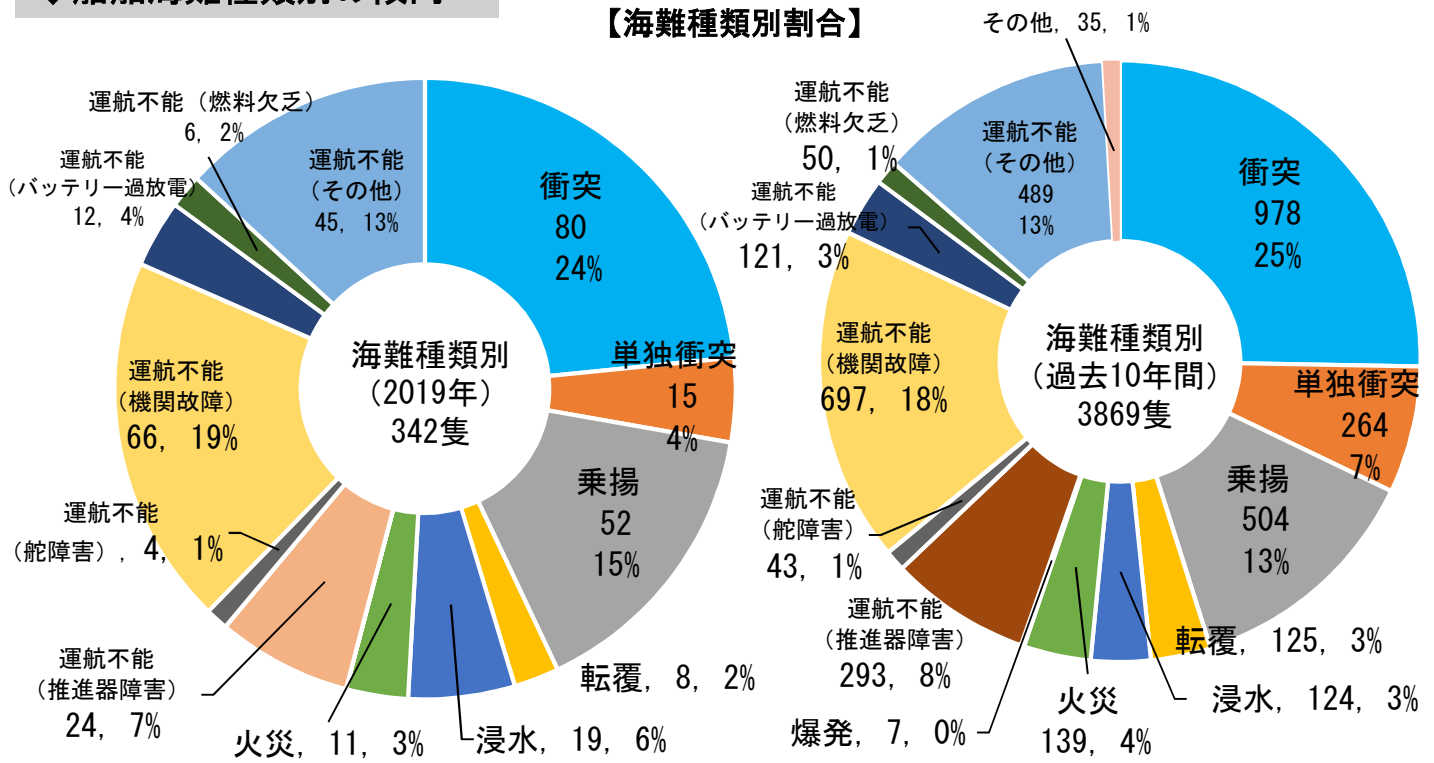
2019年の船舶海難隻数は342隻です。船舶種類別の隻数は、プレジャーボート158隻（46%）、漁船101隻（30%）、貨物船37隻（11%）、遊漁船14隻（4%）の順となっており、過去10年間においても同様となっています。また、小型船舶（プレジャーボート、漁船、遊漁船）による海難は全体の約8割を占めています。

海難隻数の推移をみると、減少傾向にあり、2019年は前年より28隻減少しています。

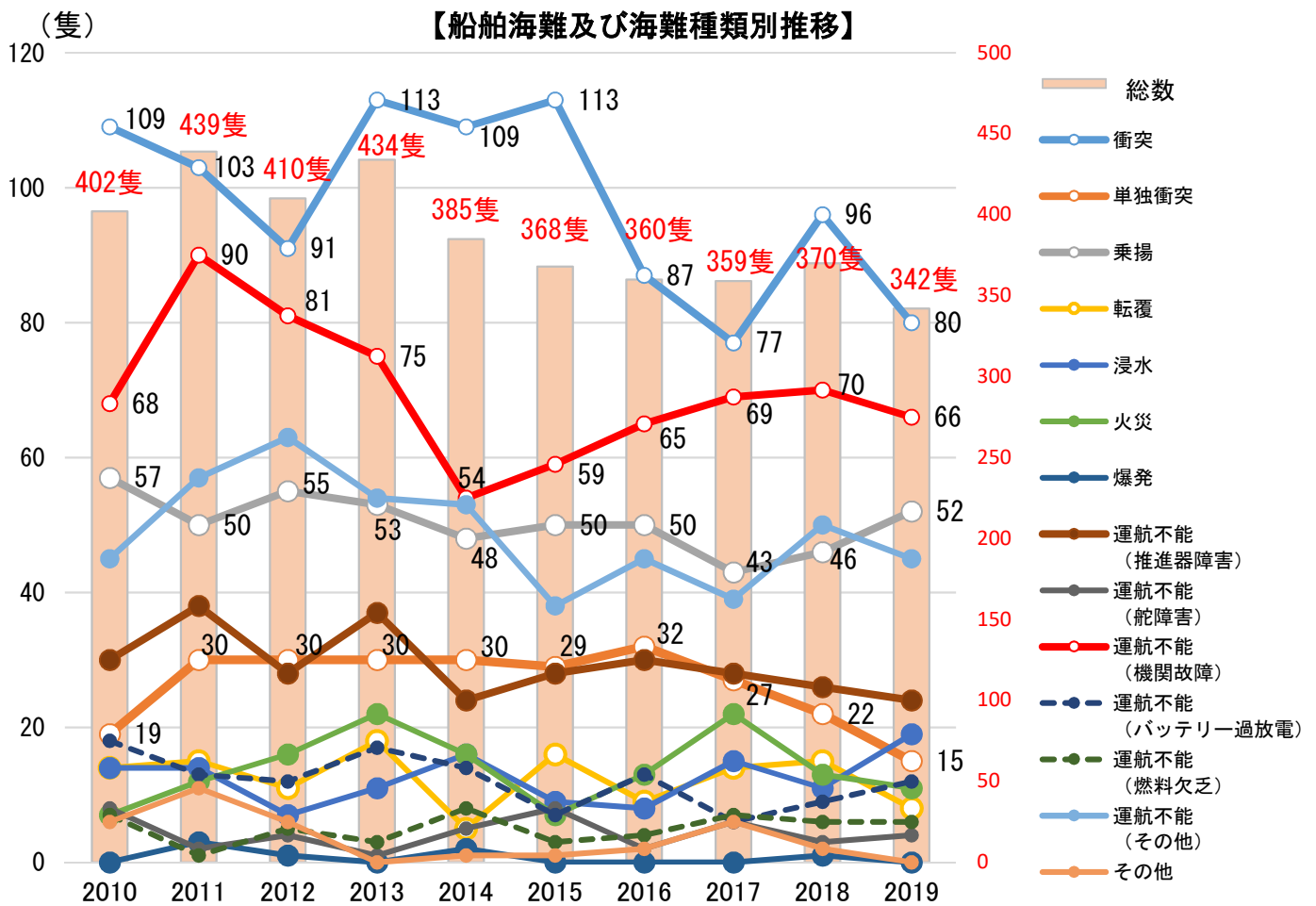
船舶種類別の推移をみると、漁船、貨物船は一定の減少傾向がみられますが、プレジャーボートについては、増減を繰り返しており、顕著な傾向はみられません。

◇船舶海難種類別の傾向

【海難種類別割合】



【船舶海難及び海難種類別推移】



2019年の海難種類別の隻数は、衝突・単独衝突95隻（28%）、運航不能（機関故障）66隻（19%）乗揚52隻（15%）の順となっており、過去10年間においても同様となっています。

近年において衝突は概ね減少傾向、運航不能（機関故障）は増加傾向にあります。

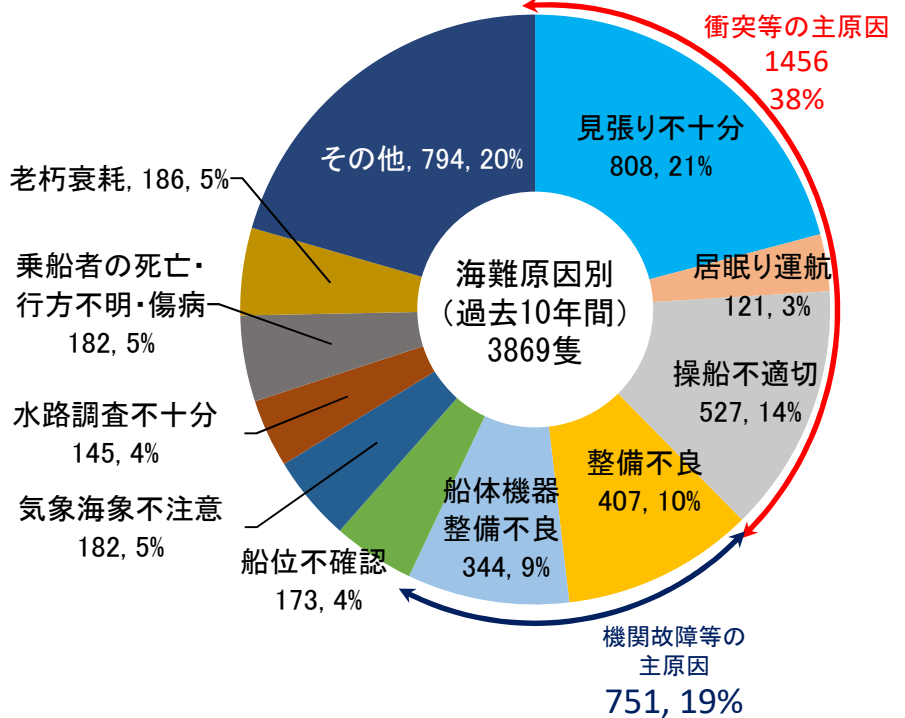
※このページのグラフにおいて、「運航不能（その他）」は、運航不能のうち、機関取扱不注意、ろ・かい喪失、無人漂流、船体傾斜、走錨、荒天難航等によるものをいう。

◇船舶海難原因別の傾向

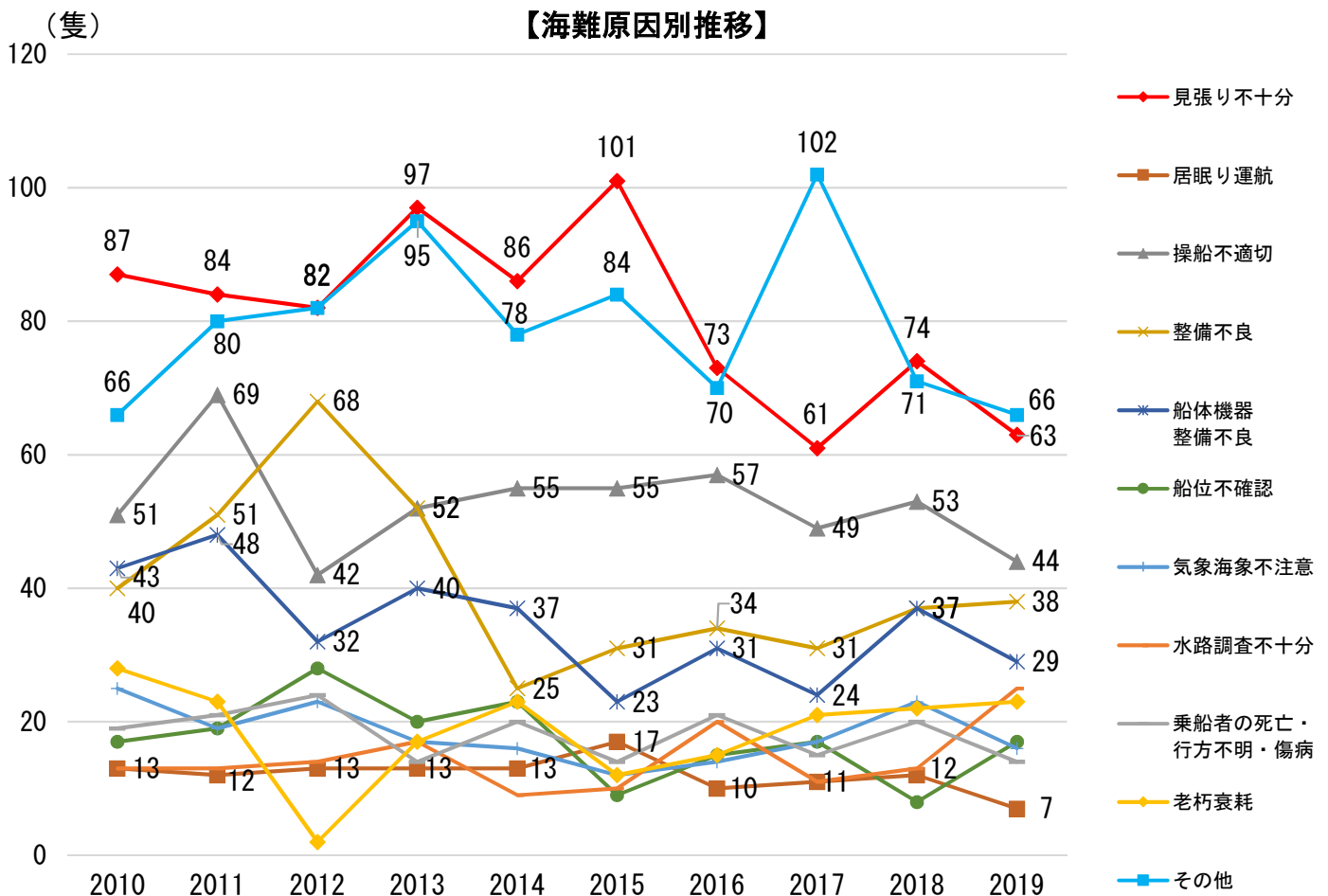
過去10年間の海難原因別隻数は、見張り不十分808隻（21%）、操船不適切527隻（14%）、整備不良407隻（10%）の順となっています。

衝突、単独衝突、乗揚の主原因となる見張り不十分、居眠り運航、操船不適切は、全体の38%を占め、また、運航不能（機関故障）等の主原因となる整備不良、船体機器整備不良は19%を占めており、これら海難原因で全体の約6割を占めています。

【海難原因別割合】



【海難原因別推移】



海難原因別の推移をみると、2019年は前年に比べ、見張り不十分が11隻減少、居眠り運航が5隻減少、操船不適切が9隻減少となっており、これらは過去10年間に於いて減少傾向となっています。

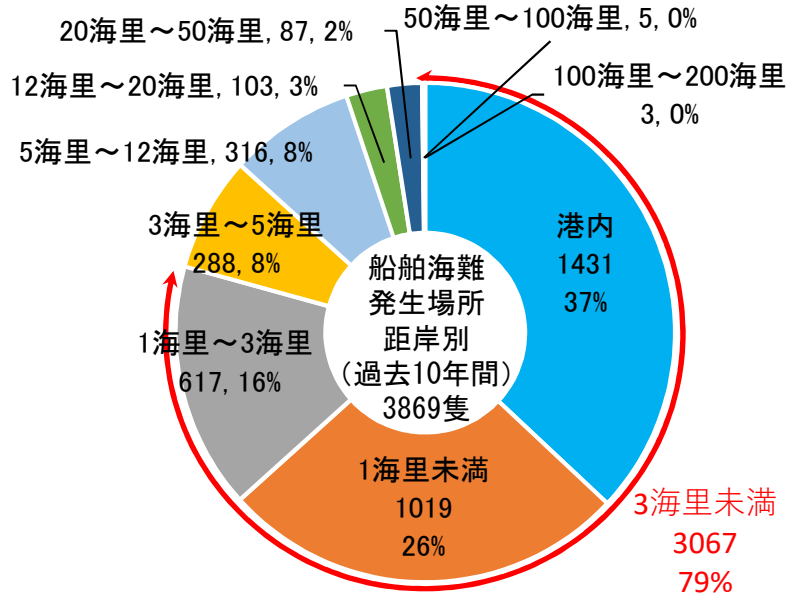
整備不良及び船体機器整備不良は、一旦減少傾向にありましたが、運航不能（機関故障）の増加とともに増加する傾向が窺えます。

◇船舶海難発生場所の距岸別傾向

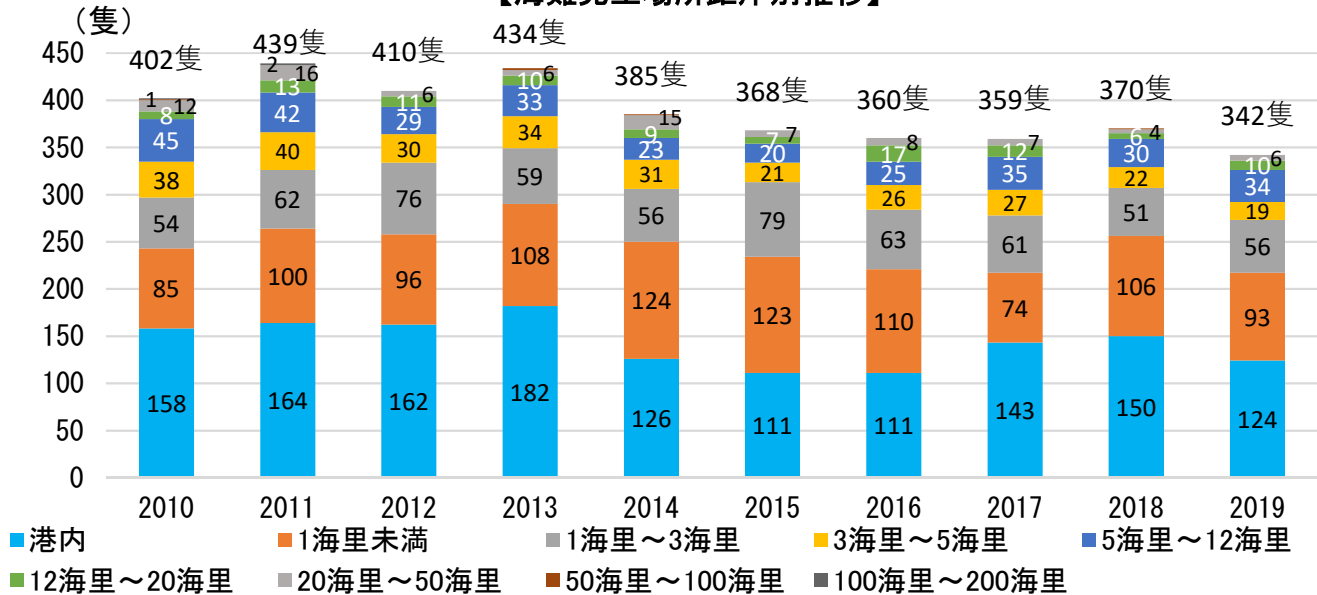
過去10年間の海難発生場所の距岸別隻数は、全体の約8割が陸岸から3海里未満であり、活動海域が比較的近距离である小型船舶による海難が多いことと関連していることが窺えます。

距岸別の推移をみると、港内は過去10年間で減少傾向にあるものの、そのほかの距岸帯においては横ばい又は微減傾向となっています。

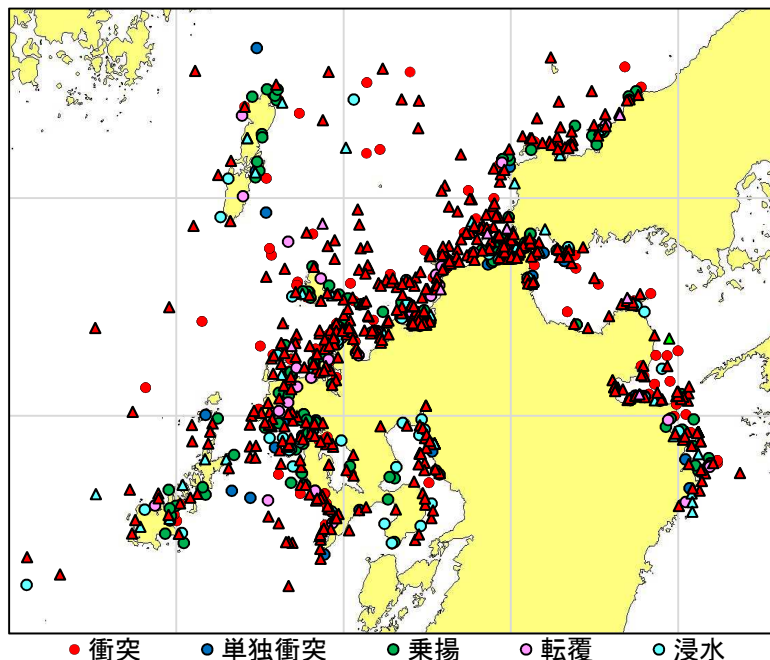
【海難発生場所距岸別割合】



【海難発生場所距岸別推移】

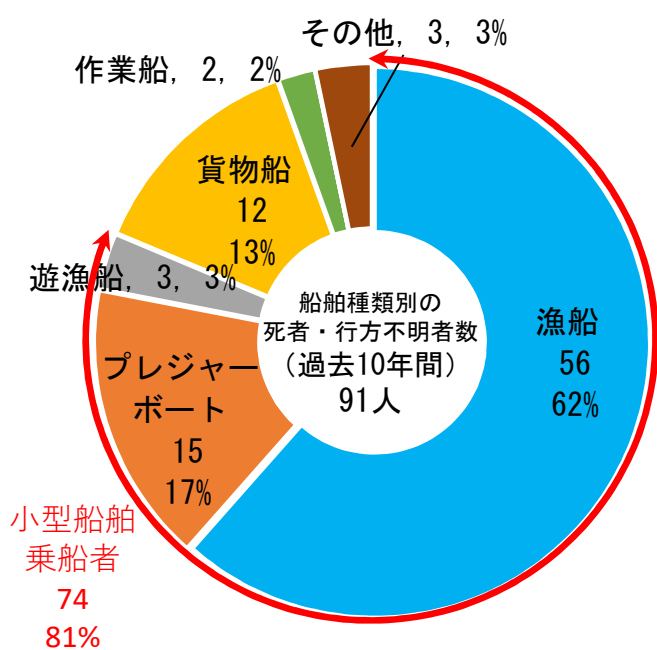


【過去3年間の船舶海難発生位置図】

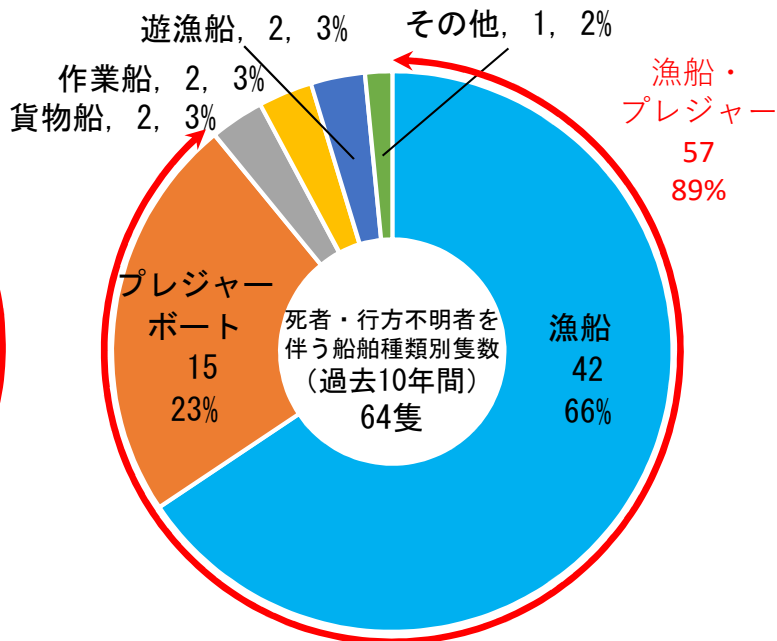


◇船舶種類別の死者・行方不明者の傾向

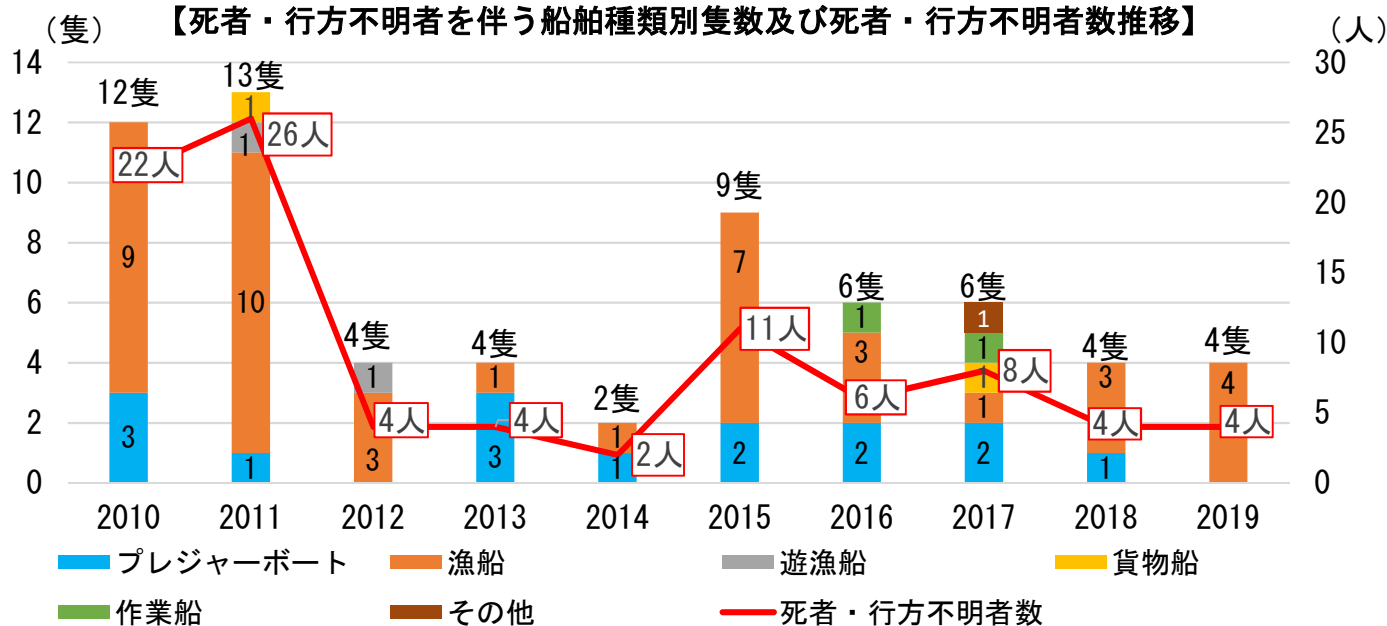
【船舶種類別死者・行方不明者数割合】



【死者・行方不明者を伴う船舶種類別割合】



【死者・行方不明者を伴う船舶種類別隻数及び死者・行方不明者数推移】



過去10年間の船舶海難による死者・行方不明者数は91人であり、2019年は前年と同じく4人となっています。

また、死者・行方不明者を伴う船舶海難隻数は、64隻であり、2019年は前年と同じく4隻発生しています。

船舶種類別の死者・行方不明者数をみると、漁船56人（62%）、プレジャーボート15人（17%）、貨物船12人（13%）、遊漁船3人（3%）の順となっており、過去には複数乗り組みの漁船で多くの方が死亡・行方不明となる事故が発生しています。

船舶種類別の発生隻数をみると、漁船42隻（66%）、プレジャーボート15隻（23%）、貨物船、遊漁船及び作業船がそれぞれ2隻（3%）の順となっており、漁船とプレジャーボートで約9割を占めています。

発生推移をみると、2010年、2011年には10隻を超える死者・行方不明者を伴う船舶海難が発生し、死者・行方不明者数も20人を超えましたが、その後は海難隻数が10隻未満となり、2012年以降は死者・行方不明者数も低水準で推移している状況となっています。

